

---

## 最近のテレビ・バラエティー番組に関する意見

---

### 放送倫理検証委員会

委員長	川端 和治
委員長代行	上滝 徹也
委員長代行	小町谷育子
委員	石井 彦壽
委員	市川 森一
委員	里中満智子
委員	立花 隆
委員	服部 孝章
委員	水島 久光
委員	吉岡 忍

## 緒言 本意見書のスタイルについて

本委員会は、最近のテレビ・バラエティー番組について、これを審議対象として取り上げるかどうかの討議に5回、審議を開始してからは、もっぱらこの問題を論じるために開いた2回の臨時委員会を含め、5回の委員会期日を費やしてきた。討議・審議は9ヵ月に及んだ。

このような膨大な検討時間を要したのは、この問題がテレビという表現媒体のもっとも根源的な部分に関わっていることを、委員の誰もが自覚し、慎重にならざるを得なかったことによる。

\*

委員会は、「放送倫理を高め、放送番組の質を向上させるため、放送番組の取材・制作のあり方や番組内容などに関する問題について審議する」（放送倫理検証委員会運営規則4条1項）ことをその任務のひとつとしているが、ここでいう「放送番組の質の向上」のための審議は、あくまで放送倫理・番組向上機構の「正確な放送と放送倫理の高揚に寄与する」（放送倫理・番組向上機構規約3条）という目的の範囲内で行われるのであるから、放送倫理という視点から離れて自由にバラエティー論を展開できるわけではない。

しかし、バラエティーのもっとも本質的な特性は、面白く、わかりやすい表現によって既成の規範や権威や権力の真実の姿をさらし、視聴者の笑いや驚きや納得を誘うことにある。そのために工夫された新しい発想と表現方法が見る者の心を刺激し、解放して、より自由で、とらわれのない世界へと導いていく。

つまり、バラエティー番組がバラエティーとして良質であればあるほど、既成の通念や権威による表現についての限界設定という性質を持つ放送倫理とのあいだに、少なくとも形式的には、齟齬が生じる可能性が高まることになる。

また、良質のバラエティーは、種々雑多な内容と質を持つ数多くの番組という広い裾野の上に初めて出現するはずであるから、裾野の質を論じてこれを弾劾することも、頂点のあり方を歪めてしまう可能性がある。

\*

現在放送されているバラエティー番組には、相当数の視聴者が不快感・嫌悪感を持ち、反発するような問題点があることは否定できない事実である。

しかしながら、世間の規範から逸脱し、視聴者に不快感を与えたとされる番組に放送倫理基準を機械的に当てはめて結論を出せば、それで足りるというわけではない。そのような安易で機械的な倫理基準の適用による断罪を行えば、テレビ番組のなかでもっともテレビらしいジャンルを窒息させ、これからの発展の可能性をも封じてしまうことになりかねないからである。

私たちが腐心したのは、委員会の任務とバラエティー番組の質のあいだにあるこの矛盾を、いかにバラエティー番組の充実という方向で解決するのかということであった。

委員会は、バラエティー番組がこれまで人々をタブーから解放し、より自由で、風通しのよい社会を作ること貢献してきた事実を高く評価するがゆえに、一方でバラエティー番組において放送倫理がもっと実質的に尊重されるような意見を述べつつも、他方でバラエティー番組がその自由で斬新な表現という特性をより発揮するよう制作者を励ますことのできる方法はないものかと考え、悩みつづけた。

\*

委員会がこれまでに出してきた意見、見解、勧告のスタイルは、放送倫理を根拠にする番組批判には適したものであったが、しかし、本件でそれを踏襲したのでは、委員会の真意は、娯楽を倫理で断罪することに反発する制作現場には届かないであろうし、コンプライアンス強化という名目による番組規制を呼び込んで、バラエティー表現をいたずらに萎縮させるおそれもある。これでは委員会の意図に反する結果になってしまう。

そこで委員会は、バラエティーの諸問題を検討するにあたり、これまでの意見書のフォーマットや文体を捨て、まったく新しいスタイルによってこの問題を論じることにした。バラエティ問題を適切に扱うためには意見書のバラエティー化を図ってみるしかない、と考えたのである。

これは多くの人に奇異な印象を与えるかもしれない試みであるが、委員会自身が、従来の様式や文体から逸脱していくスタイルを意識的に採用することこそが、バラエティの質の向上と倫理問題を同時に論じうる唯一の道であると思いついたためである。

この点をご了解の上、以下の意見書をお読みいただきたいと思う。

BPO放送倫理検証委員会

カット 里中満智子

# 目次

緒言 本意見書のスタイルについて .....	1
I はじめに——バラエティーを検証しても意味がない? .....	4
II バラエティーを考えるとすることは、大変なのだ .....	6
1. バラエティーって何だ? .....	6
2. バラエティーと世の中との関係 .....	8
3. バラエティーは腕白坊主か? .....	9
4. バラエティーは危機なのだ! .....	11
5. 視聴者意見と委員会 .....	13
III バラエティーが「嫌われる」5つの瞬間 .....	15
1. 下ネタ .....	16
2. イジメや差別 .....	16
3. 内輪話や仲間内のバカ騒ぎ .....	17
4. 制作の手の内がバレバレのもの .....	19
5. 生きることの基本を粗末に扱うこと .....	20
IV なぜ、コレが嫌われるのか .....	22
1. 「つまんねえよ」と視聴者は言う .....	22
2. 視聴者は素人ではない .....	24
3. 生きることの基本を粗末に扱う、とはどういうことか .....	27
4. 昔、バラエティーは何を笑っていたのか .....	27
5. 王様の笑い、庶民の笑い .....	28
V バラエティーが成り立つ公共空間 .....	31
1. テレビ本来の姿としてのバラエティー .....	31
2. いま、視聴者の現実が見えているか .....	33
3. これまでのあらすじ .....	35
VI おわりに——バラエティーに新しい力と魅力を .....	39